

令和7年度 沖縄離島体験・デジタル交流促進事業（本島→離島版）

受託：(株)カルティベート・(株)りゅうせきフロンティア共同企業体

背景・現状

- 沖縄21世紀ビジョンにおいて、離島地域の住民負担を『沖縄の心である「ユイマール精神」に基づき、県民全体で支え合う新たな仕組みを構築していく。』と謳っているが、現状として、沖縄本島地域の住民の離島地域への関心は低い状況にあり、多様な交流を通じて相互理解を深めていく必要がある。
- 沖縄の離島地域は、個性豊かな自然環境、文化等の魅力を有しており、観光業等による離島振興が期待できるものの、受入基盤が不十分な現状にある。



今年度の主な取り組み

- 安心して教育旅行ができる目的地を目指し、関係する全ての人々が連携した受入体制の構築を図る
- 本事業を通じた児童の離島理解促進と健全育成を目指し、学校現場と連携した学習効果の高い体験活動(事前・事後学習を含む)を推進する。また、「地元と派遣離島」の比較による地域理解の促進を図る。
- 島側が児童の自律的・主体的な学びを促進する体験・交流を実施できる組織づくりと人材育成に取り組み、法令遵守と危機管理に対する意識向上、受入体制の構築・強化、オンラインプログラム実施体制の確立・強化、自立的観光に向けた基盤整備を推進する。

事業概要

- 児童が離島の重要性、特殊性及び魅力に対する認識を深めるとともに、体験プログラムやオンライン離島体験のコンテンツの開発支援・改善、民泊を中心とした受入体制を構築・強化し、交流による離島地域の活性化を図る。

期待される効果

- ① 離島地域の文化、環境及び産業を活かした新たな体験学習の場の構築
- ② 沖縄本島の児童が、離島の重要性、特殊性及び魅力への理解を深める
- ③ 児童の豊かな人間性や社会性の形成
- ④ 本島と離島との交流促進
- ⑤ 離島観光の振興

●実施概要（離島派遣）

1) 参加学校

沖縄本島内の小学校5年生
(20校、1,270名)

2) 実施市町村

伊平屋村、伊是名村、伊江村、粟国村、
久米島町、渡嘉敷村、宮古島市、
石垣市、竹富町、与那国町
(10市町村・11離島)

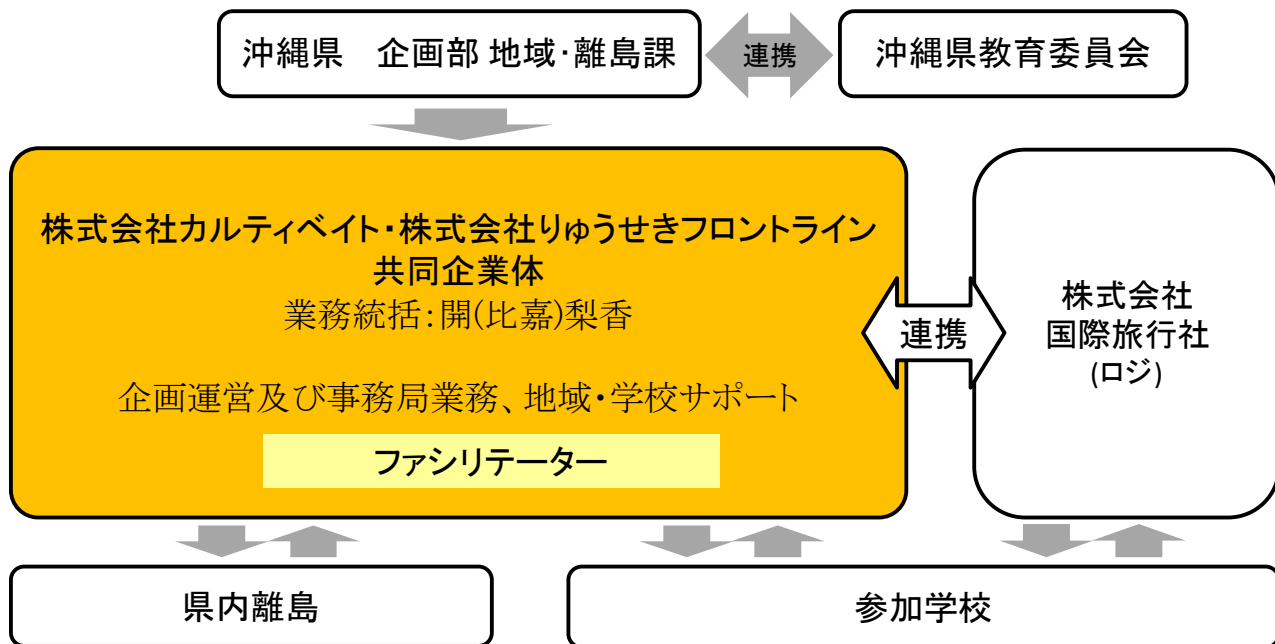
3) 実施期間

令和7年6月～令和7年12月

4) 費用負担

本事業にかかる費用は、旅行保険と
昼食代以外は沖縄県が負担

事業スキーム



本事業にファシリテーターがいる意義とは

①子ども達への効果

- ・学校側が目指す学びに沿った、ストーリー化された体験型プログラムデザインができる。
- ・体験プログラムに、より学びや気づきを促進する仕組みを取り入れることができる。
- ・これまでの蓄積から、派遣学校側へのアドバイザー的役割を担うことができる。

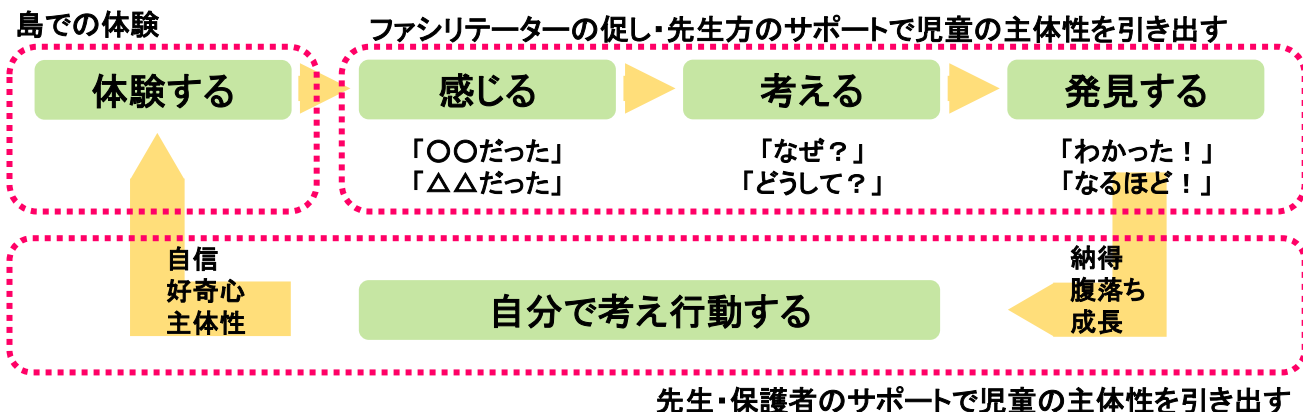
②受入れ離島への効果

- ・携わる人々(受入離島、派遣学校等)の視点をつなぎ調整することで双方にとってより良い場をつくり出す。
- ・より深い学びや気づきを促進する体験プログラム開発などにアドバイザーとして携わることができる。
- ・派遣する子どもだけでなく、受入れ地域の子ども達への学習効果にも目を配ることができる。

学習効果の高いプログラム作りを目指しています

本事業には、体験学習法の考え方が取り入れられています。ファシリテーターは、児童たちの体験を「体験する」だけに留めず、「感じる」「考える」ことを促し、自ら「発見する」よう導くことで、離島での体験が「体験だけ学習」にならないように取り組みます。

また、学校での事前・事後学習、学習指導要領と連動することで、児童の学びの質の向上を目指しています。



受入れ離島側と取り組む5つのチャレンジ

毎年、受入れ離島の方々と一緒に、様々なチャレンジをしている本事業。取り組んでいることをご紹介します！

チャレンジ1. 受入体制の強化(活性化の仕組みづくり)

本事業を通して受入組織の立ち上げや既存の受入組織の強化をサポートします。また、各離島・地域の組織と連携し、地域内で「喜び」と「収入」が循環するような仕組みづくりを後押しします。

さらに、事前に事業関係者を集めての会議の開催を実施することで、事業理解の促進や情報共有、主体的な観光振興の機運を醸成します。



受入れ離島での打ち合わせ

チャレンジ2. 体験プログラムの開発と質の向上

教育旅行の誘致に活かせるよう、毎年受入れ離島側と一緒に、各島の特色に合わせた体験プログラムを作っています。R2年度からはオンラインを活用した体験交流プログラムの開発にも取り組み、学校教育で活用できる質の高いオンライン体験交流コンテンツの拡充に取り組んでいます。

既存の体験プログラムに関しては、必要に応じて新たな要素を取り入れたりブラッシュアップを図りながら、質の向上を目指します。



プログラム作り作戦会議

チャレンジ3. 危機管理体制の構築・強化 (安全安心な受入体制の構築・強化)

子どもの命を預かるからこそ、受入れ離島側とは真剣な話し合いを何度も重ねます。リスクマネジメント講座の開催や受入れマニュアル作成サポートを通して多様化するアレルギーや緊急時の対応ノウハウの習得など、離島側の安全安心な受入体制の構築・強化に取り組めます。



派遣学校側での保護者説明会

チャレンジ4. コーディネーターやガイドの発掘・育成

地域のコーディネーターやガイドの方々のスキルアップや新しいプログラム実施者の発掘・養成に取り組み、より多くの島の方々が関わることで、地域の観光振興や活性化に繋げる取り組みをサポートします。

また、コーディネーターを対象とした合同合宿や他離島での現場研修を開催し、島同士の相互研鑽を促進します。



児童向けオリエンテーション

チャレンジ5. 受入れ離島側の児童・生徒の学び促進

本島の児童と離島の児童・生徒が互いに刺激を受け合うような子ども達同士の交流を行います。受入れ離島と何度も話し合いを重ね、互いの子ども達の学びを促進します。

本事業を通して、離島の児童・生徒が本島に進学する際の友人づくりの練習や自信につながる経験ができるよう、積極的に取り組めます。